

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3071200863
法人名	社会福祉法人 聖アンナ福祉会
事業所名	グループホームたかお
所在地	和歌山県紀の川市貴志川町高尾194-1 (電 話) 0736-65-3382

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(20年8月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 840 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低 65 歳	最高 100 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立那賀病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. グループホームの目的とする家庭的な雰囲気が感じられ、職員は利用者一人ひとりによく目の行き届いたケアに取り組んでいる。
2. 家族には利用者の生活状況や健康状態を来訪時や電話で頻繁に伝え連絡を密にしている。
3. 利用者の体調に応じて、また車椅子の人にも、買い物や外食、見物など活発な外出支援を行っている。
4. 食事は利用者の嗜好を活かし、高齢者に相応しい食材を使い、栄養バランスも考慮している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による要改善事項について、理念に地域密着型の役割を付け加えたり、家族への報告など改善への取り組みに努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価は、各職員が評価票に記入したものを管理者が取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議において、ホームの現況を報告し、外部評価結果、避難訓練、相互研修、地域行事への参加等を議題とし、構成員メンバーから出された意見を参考にして、サービス改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情解決委員会を設け、また投書箱も設置している。家族等から要望等が出されることがあるが、速やかに対応し、要望等に沿って運営に取り入れるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近辺の保育所の運動会やクリスマス会に呼ばれ見物に行ったり、自治会長から利用者の参加が出来る行事があれば伝えてもらっているが、自治会、老人会等の地域活動への参加は十分なされていない。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの個性を大切にし、笑顔あふれる楽しい生活を、地域の中で共に過ごしますという独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共同室に掲示し、管理者・職員は利用者に笑顔で接し、日々利用者が楽しい生活を送れるように支援している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近辺の保育所の運動会やクリスマス会に呼ばれて見物に行ったり、自治会長から利用者が参加できる行事があれば伝えてもらっているが、現在のところ自治会や老人会等の地域活動への参加は十分なされていない。	○	利用者が参加できる行事等があれば参加し、地域との付き合いを深めることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価は各職員が評価票に記入し、管理者が取りまとめた。また前回の外部評価による要改善事項は、理念に地域密着型としての役割を付け加えたり、家族への報告など改善への取り組みに努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、ホームの行事や入居者の現況、外部評価結果、避難訓練、グループホーム間の相互研修等を報告し、構成メンバーからは地域行事への参加など諸々の意見が出されている。そして会議で出された意見を参考にしてサービスの改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に市の担当者とは、行き来する機会をつくっていない。	○	ホームの運営等について疑問があれば、市の担当者に質疑・相談を行うなどして、共にサービスの向上に取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とは、来訪時や電話で頻繁に利用者の健康状態や日常生活の状況を報告し、行事の写真を渡したりしている。なお金銭の管理は殆んどの人について行っていないが、一部お金を預かっている人には預かり書を出している。また職員の異動は面会時や電話で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決委員会を設け共同室に書面で掲示し、投書箱も設置している。家族等から要望等が出されることがあるが、速やかに対応し、要望等に沿って運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の職員の異動は少ないようにしている。異動があった場合は、職員は利用者の健康状態について話し合いコミュニケーションのきっかけにしたり、ケアプランを読み一人ひとりの特徴を知って徐々に馴染みの関係を築くように心がけている。また異動した職員も遊びに来て話し合ったりしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度ホーム内で県グループホーム連絡会での研修報告等を行っている。また認知症、サービスの質の向上、食中毒・感染症、防火管理など諸々の外部の研修会に参加している。また新人が入ってきたときは、2か月間は先輩の職員についてもらったり、夜勤は管理者等がついて2人で行い業務を見習うようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に加入しており、ホーム間の相互研修も行っており、経験を深めてサービス向上の参考としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用予定者・家族がホームを訪れ、ホームでの生活の状況を見学してもらっている。居室には馴染みの家具等を持ってきてもらったり、入居直後は家族が度々訪れたり、また気分転換にドライブや買い物に連れて行って不安を解消し、徐々にホームに慣れてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごしながら共にレクリエーションや多彩な行事等を楽しんでいる。また利用者の過去の経験から、料理の仕方や言葉づかいなどを教えてもらったりして、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の業務の中で利用者を観察し希望等を把握するよう心がけている。把握することが困難な場合は家族から聞いたりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度ミーティングを開催し、職員の意見を取り入れ、本人・家族の希望を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に一度、また利用者の心身に変化があったときはその都度、見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外食や買い物、花見等の外出を支援しており、またリフト車を利用して車椅子の人にも外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する主治医に、普段やまた緊急を要する時に往診や相談・指示を受けることができる。また入居前からのかかりつ医から医療を受けている人もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときや終末期をどうするかについて、家族の意向を聞いてケアマネージャー、医師等と話し合っており、家族とともに終末期の方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊厳したケアを行い、誇りを傷つける言動がないよう注意している。また利用者の個人情報が漏れないよう記録などは事務所のロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には業務の一日の流れはあるが、利用者の個々のペースを尊重し、希望があることが分かれば散歩など職員が随時付き添って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べ物の好みを聞き献立に取り入れ、なじみの食器を使い、気のあった人同士が話し合いながら楽しく食事が出来るよう心がけている。また利用者の中で出来る人は、野菜の皮むきや刻みなどの食事の準備や、食器洗いなど後片付けを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況や希望にあわせて、毎日午後の入浴を支援しているが、隔日でよいという人もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は経験や持っている能力に応じ、掃除や食器洗い、洗濯物干し・たたみ、畑での野菜等の水やり、買い物時の荷物を持つなどの役割をしている。また利用者は外出や買い物を楽しんでおり、職員はこれを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者はその日の希望により、買い物や、夏期は日陰になる1階の駐車場、涼しくなれば近辺へ散歩に行ったりしており、職員はこれを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(午前7時頃から午後9時頃まで)は玄関に鍵をかけていない。外に出る危険のあるときは、ドアを手動にし利用者の力では開けられないようにして、安全を確保している。なお居室は終日鍵をかけていないが、夜間、中から鍵をかける利用者もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備え消防署の協力を得て、避難訓練を年2回行っているが、地域の人々へ協力が得られるよう働きかけは行っていない。	○	災害時に地域の人々の協力が得られよう、日ごろの理解と働きかけを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材には、肉や魚が重ならないようにし、野菜を多くして味噌汁にも具に野菜を多く入れ、塩分を控えている。また植物繊維を多くし、ヨーグルトを摂ったりして便秘の予防を図っている。なお栄養面でバランスがとれるよう、食材の種類を多くしている。水分は朝から夕方まで5回摂取し、量を記録しており不足が生じないようにしてい		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、壁面には、利用者の写真を貼ったちぎり絵や、行事の写真を飾っている。共同室内のビデオで流す歌や、室内の光の強さも適当と感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が利用者の使い慣れた家具をもってきたり、色々の人形を置いたり、壁面には手作りの品物を掲げたりしている。また人によっては、なじんだ句集を置いたりして、それぞれ居心地よく過ごせるよう配慮されている。		